

令和3年度 第1回学校運営協議会 議事録

日 時：令和3年7月10日（土）午前9:30～11:30

場 所：大阪府立布施北高等学校 展開1教室

出席者：高田克己様、中西進泰様、菊地栄治様、塚本佳秀様、浅岡美和様、西村芳世様、
校長、教頭(2人)、事務長、首席(2人)、教諭(2人)

1. 【開会に先立ち】校長あいさつ

- ・今年度入試で定員割れしたことへの対策に取り組んでおり、「将来構想委員会」で話し合いを続けている。また、「将構委」の発案で教員全体での研修会を開催し、8割以上の教員が参加。その結果、個々の教員の様々な想いを聴くことができた。

2. 互選による会長と副会長の選出：高田様を会長、中西様を副会長に選出

3. 会長および副会長あいさつ

4. 【開会。その後の議事進行は、高田会長様の委嘱を受けて中西副会長様】

(学校より)

- ・「令和2年度学校経営計画及び学校評価」および「令和3年度学校経営計画」の説明

(ご意見等)

- ・40期に比べ41期は生徒、保護者の評価が大幅に上昇した。なぜ41期は評価が上がったのかを学校としてきちんと分析すべき。41期が大幅に上昇した原因を掘り下げることが、今後を考えるうえで重要。
- ・令和2年度の卒業生（41期）は「面倒見が良かった」といっているが、中学校では「面倒見が悪くなってきている」という声もある。それはなぜか？
- ・新型コロナの影響で、生徒と教員のつながりが弱くなったのではないか。そのような、昨年度の「反省」を踏まえて今年度は取り組んでほしい。
- ・中学校における進路選択では、高校が最後まで面倒を見てくれるのが重要となる。
- ・中学生は、学校で先生からいろいろ聞くので高校に関するある程度の知識はあるが、保護者、特に学校行事に参加しない保護者の意識（認知）を上げることも必要ではないか。

5. 意見交換：【学校の課題と今後の特色づくり】

- ・卒業後の面倒を学校はどこまで見られるのか。もっと生徒と関わる（卒業後もしっかりつながることができる）学校になってほしい。
- ・定員を充足させる取組みをするなかで変わってしまう高校がある。布施北の面倒見の良さは変わらないでほしい。
- ・「将構委」の試みを高く評価したい。先生方の多くは、自身が生徒と丁寧にかかわることの大切さを表現しておられる。先生がどのように関わって『できないをできるにしよう』としていくのか、主体性に任せてしまって「ほったらかし」にせず、面倒見の良さにつなげてほしい。先生のひと声で生徒が変わることもある。41期の評価の高さの背景には、この「面倒見の良さ」があるのではないか。
- ・できるようになることは良いことだが、生徒に「変われ」を押し付けるのではなく、自然に変わっていくよう働きかけることや、変わらないことはダメだと決めつけないでほしい。

6. 令和4年度使用予定教科書の選定に関して

(ご承認いただいた。)